



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

新任挨拶 「誰からも選ばれる大学病院」へ ～理事長就任にあたって～



公立大学法人福島県立医科大学

理事長兼学長 竹之下 誠一

本年度より理事長に就任しました竹之下誠一です。就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本学は、1872年に始まる須賀川医学校にその源を発しています。以来およそ150年の永きにわたって、教育・研究・診療はもとより、県内唯一の医科大学として、地域医療の充実と発展という使命を果たしてまいりました。さらに、2011年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故発生以来、人類史上誰も経験したことのない新たな使命、すなわち県民の健康を長期にわたり見守り、医療と健康の面から福島の復興と再生に貢献するという使命を負うことになりました。これらの使命を果たすべく、私たちは、全学をあげて日夜不断で努力・邁進し試行錯誤を繰り返しながら今日に至っております。私は、理事長として、これまでの確固たる道筋を継承するとともに、その上に復興の完遂までを見据えた新たな取り組みを、築き上げなければならないと肝に銘じております。

本学には教育、研究を担う医学部と看護学部を含めた大学と、復興への取り組みを加速化するために設立したふくしま国際医療科学センター、そして診療を担う附属病院と

いう機能別に分けると大きく3つの組織があります。特に本学附属病院は、震災以前より、福島の医療の要の役割を果たしてまいりましたが、さらに、これまで以上に充実した医療環境を福島県内に確立すべく、様々なチャレンジをしています。

例えば、子どもや女性医療体制の充実です。災害後の福島において、安心して子どもを産み、育てることができるよう、小児医療、女性医療の施設と体制を拡充させました。そのレベルは県内最高水準、全国でも指折りの充実度となっています。

また、双葉地域市町村の避難指示解除が進む中、この地域の医療体制の再構築は、住民の強い要望もあり、当院に課された喫緊の課題です。震災直後より、当院の医師の派遣は継続して実施してまいりましたが、さらにふたば救急総合医療支援センターを開設し、一刻も早い双葉地域の医療再建を目指します。

その他にも、国内の医療機関の中でも非常に珍しい「災害医療部」を新設し、風水土砂災害などの天災、原子力災害、あるいはそれらが組み合わさった複合災害にも適切に医療対応できる人材の育成と体制を整えます。また、がん治療、核医学治療や移植医療の充実など、国内で、あるいは東北でトップクラスの医療を提供できる設備、人材、体制も整えて参ります。それらの取り組みの根底にあるのは「誰からも選ばれる大学病院」です。老若男女、災害に被災された方や避難された方、あらゆる立場、状況に置かれたどのような方にも、適切な医療が提供できる、選ばれる大学病院として成長をしていきたいと考えています。

これらの実行と実現に向け、皆様の御指導、御支援、御協力を賜りながら、自ら身命を賭して取り組む所存です。よろしくお願い致します。

第38号のなかみ

- 1ページ…… ○新任挨拶
- 2ページ…… ○新任挨拶
- 3ページ…… ○看護の日に寄せて○薬剤師を全病棟に配置しました
○病院食堂の再オープンについて
- 4ページ…… ○脳疾患センターを開設しました
○パンダハウス増築完成オープニングセレモニーを開催しました

病衣・タオル・紙おむつ・日用品・付添寝具

手ぶらで入院・手ぶらで退院

入院セットレンタル

お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口
024-548-8777



* 院内1階、入退院受付横 9番窓口
月～土曜日 9:00～17:00(日祝祭日休日)
土曜日はきぼう棟1階ローソン南側にて営業します。



マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)
ローソン福島県立医科大学会津医療センター店

新任挨拶



甲状腺・内分泌診療センター
センター長 横谷 進

大学の組織として、ふくしま国際医療科学センターの中に甲状腺・内分泌センターが設置されましたが、その診療機能を担う部門として、甲状腺・内分泌診療センターが2016年12月23日の「みらい棟」（ふくしまいのちと未来のメディカルセンター棟）のオープンに合わせて稼働を開始しています。当センターの開設に尽力し初代センター長を務められた大戸斉教授の後をうけて、2017年4月より赴任してセンター長を拝命いたしました。私自身は小児内分泌学を専門としていますが、学会や総合病院での診療を通して、年齢を超えて多くの内分泌疾患を学んできました。ここでも学びつつ奉仕したいと考えています。

甲状腺・内分泌診療センターの目的は、甲状腺を含む内分泌疾患の診断・診療の総合窓口になり、外科、内科、泌尿器科、あるいは、脳外科の専門家が診療科の枠を越えて患者さんを診ることにより、総合的な診療を行うことです。

当センターは、その名称の通り、福島県の県民健康管理調査（甲状腺検査）を通して診療が必要とされた方を多く受け入れて、専門診療を提供しています。また、内分泌疾患は、正しい診断にたどり着くためにも、また、最も適切な治療方法を選択してそれを専門とする診療科が担当し次にバトンパスするためにも、診療科の枠を超えた協力体制が欠かせません。当センターは、病院の基本方針「私たちは、患者さん一人ひとりのニーズにこたえる最高水準医療・先進医療を提供」するために全力を尽くします。



検査部 技師長 山寺 幸雄

平成29年4月1日より、検査部の技師長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。前職は郡山市の太田総合病院附属太田西ノ内病院の検査技師長として勤務しておりました。今回このような機会をいただきましたので、臨床検査技師業務の紹介と今後の抱負について述べたいと思います。

検査業務は多岐に及びますが、大まかには検体検査と生理検査分野に大別されます。検体検査には血液検査や尿一般検査、生化学・免疫検査、微生物検査、病理・細胞検査、輸血検査などがあり、生理検査には心電図、呼吸機能、脳波、筋電図、睡眠検査等の機能検査や超音波検査などの画像検査があります。当大学病院では病理・細胞検査は病理部、輸血検査は輸血・移植免疫部で担当しておりますが、それぞれの領域において専門的スキルが要求される業務であるためスペシャリストを育成する必要があります。

私はその中でも、長年にわたり生理検査分野に従事し、特に超音波検査や睡眠検査の分野では学会認定の専門技師として積極的に学術活動を行って参りました。また、管理職として検査業務の拡大や後進技師の育成にも力を注いで来ました。当大学病院に着任して早くも2か月が経過しましたが、その間に多くの診療科の先生方とお話をさせていただき、検査部への期待が大きいことも分かりました。今後は、前職の経験を活かすことで、診療側の要求内容にお応えし、延いては地域医療並びに高度医療の発展に貢献できる検査部にしたいと考えています。県民の皆様には精度が高い検査結果を提供し、安心して医療が受けられるよう努めて参りますので、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



5月12日のフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで、今年は5月7日から5月13日までを「看護週間」とし、全国各地で看護の日のイベントが開催されました。メインテーマは、「看護の心をみんなの心に」です。当院では、5月11日に、きぼう棟正面玄関フロアとみらい棟ときぼう棟をつなぐフロアにおいて、イベントを開催しました。

県民の皆様へ健康意識を高めていただくために、身体測定・健康相談・栄養相談・転倒予防運動教室・手洗いチェックを行いました。また、看護について関心をもつていただくために、「ナースのお仕事」写真展示を行いました。参加して下さった皆様からは、看護師へ、たくさんの温かいメッセージをいただき、誠にありがとうございます。皆様とふれあえる機会となりましたこと、心よりうれしく思います。

私たちは、県民の皆様ひとりひとりに寄り添い、入院中や外来通院の患者様とご家族へのケアはもちろん、地域の皆様の疾病予防と健康増進にも努めていきたいと考えています。これからも一層、より身近な存在として、県民の皆様の「みらい」と「きぼう」を共に支えていけたらと願っております。



薬剤師を全病棟に配置しました！

薬剤部

医療における薬物療法の進歩は目覚ましいものがあります。薬剤部では、患者さんに安全かつ効果的な薬物療法を提供できるよう、薬剤師が薬学的知見に基づき業務を行っております。現在の薬剤師は薬の調剤や医薬品の管理のみにとどまらず、抗がん剤の無菌調製や患者サポートセンター業務での入院前面談、医療安全など様々な業務に携わっております。

特に病棟業務におきましては、平成5年より徐々に薬剤師の増員をはかりながら、医療チームの一員として服薬指導や薬品管理などの業務に従事して参りました。そして平成28年末、全ての一般病棟に加え、念願であった集中治療室や救命救急センターなどのよりリスクの高い薬剤が汎用される部門へも薬剤師を配置することができました。これからも患者さんにより良い薬物療法を提供できるよう、薬剤部員一同研鑽に努めて参ります。

患者さんが入院された際には、病棟薬剤師がベッドサ

イドにお伺いして面談させていただいております。面談では、お薬の内服状況や使用履歴、アレルギー歴や副作用歴などの薬物療法において重要な情報の聞き取りや確認、入院後に開始するお薬の説明などを行っております。すべては安全な薬物療法のために必要なことですので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

薬に関してご心配なことや疑問、わからないことがございましたら、どうぞ気軽に病棟薬剤師にお尋ねください。



病院食堂の再オープンについて

29年3月末をもって一時休止しておりました病院食堂は、5月22日(月)から幸楽苑(本社：郡山市)の運営により再オープンしました。

従来の幸楽苑店舗で提供されているメニューに加え、カレーや定食等のメニューもラインナップされています。

また、6月1日より塩味と醤油味の減塩ラーメンも発売となりました。みなさまどうぞご利用ください。

【病院食堂通常営業時間】※定休日なし

平日 午前7時45分～午後8時 / 土日祝 午前9時～午後6時



脳疾患センターを開設しました

脳疾患センター 部長 宇川 義一

高齢化社会において患者数が上昇し、今後福島県でも重要な治療対象疾患となる脳疾患に対応するために、脳神経外科、心身医療科、神経内科が協力して患者さんに対応する脳疾患センター外来を5月1日に開設しました。20年前では、脳疾患は治りにくく治療法があまりないと言われていましたが、近年の新しい薬物の出現・分子遺伝学の進歩・BMI(Brain Machine Interface)等の新しい技術の開発により、脳疾患は治る疾患と変化してきています。これらの治療を効率的、能率的に実施するために、このセンターを開設しました。今回の改良点は、**外来を1箇所にまとめ、受診した患者さんにわかりやすい設定としたこと**、治療に厚みを増すために、**新しい職員を増員した**ことです。主な対象疾患以下の通りです。

脳血管障害(神経内科、脳神経外科)：先ず、急性期脳梗塞治療を効果的に行うことを目的としています。すでに存在する県内ネットワークを活用して、県内の医療機関との連携を務め、診療に当たります。

認知症(神経内科、心身医療科)：本院に近年導入されたPET-MRIを用いてアミロイドなどの機能画像解析と本院の

特徴である磁気刺激を用いた生理学的検査により、正確な診断を行います。福島県認知症疾患医療センターの基幹病院として、本院の心身医療科が重要な役割を演じています。

てんかん(神経内科、心身医療科、脳神経外科)：高齢化社会では、発症年齢が若いいわゆる特発性てんかんに加えて、原因疾患がある症候性てんかんが増加してきています。これら、てんかん全体を診療するために、3科が合同で診療します。



パンダハウス増築完成オープニングセレモニーを開催しました

パンダハウスの設立から20年を迎える今年、多くの方々のご支援をいただき増築の夢を叶えることができ、5月19日福島テルサにてパンダハウス増築完成オープニングセレモニーを開催しました。多くの皆様に足を運んでいただき、福島医大齋藤病院長をはじめ、皆様からの温かいお祝いの言葉をいただくことができました。皆様からの言葉を糧に、パンダハウスの活動にこれからも邁進してまいります。翌日からはオープンハウスを開催し、皆様にハウスのお披露

目をすることができました。満室状態でご迷惑をおかけしておりましたが、新しいハウスの利用をはじめることができ、少しでもお役に立てればと思っています。

パンダハウスはここからが、またスタートだと思っています。これからもパンダハウスを利用する皆様にスタッフ一同、心のこもった対応に努めてまいりたいと思っています。今後も温かくお見守りいただきますよう、よろしくお願いたします。



認定NPO法人
パンダハウスを育てる会事務局
TEL【024-548-3711】
パンダハウスHP【<http://pandahouse.org>】
FB更新中です。



すべてを地域のために
東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間:平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

